

遊漁船・瀬渡船の安全のために



はじめに

このパンフレットは遊漁船、瀬渡船の安全のために操船者、船客の方々に気を付けていただきたいことがらをわかりやすくまとめたものです。

安全な航行と楽しい釣りのために活用してください。

目次

-
1. 気象情報に注意

 2. 乗船時の注意

 3. 航行予定と連絡

 4. 避難場所

 5. 天候が悪化したとき

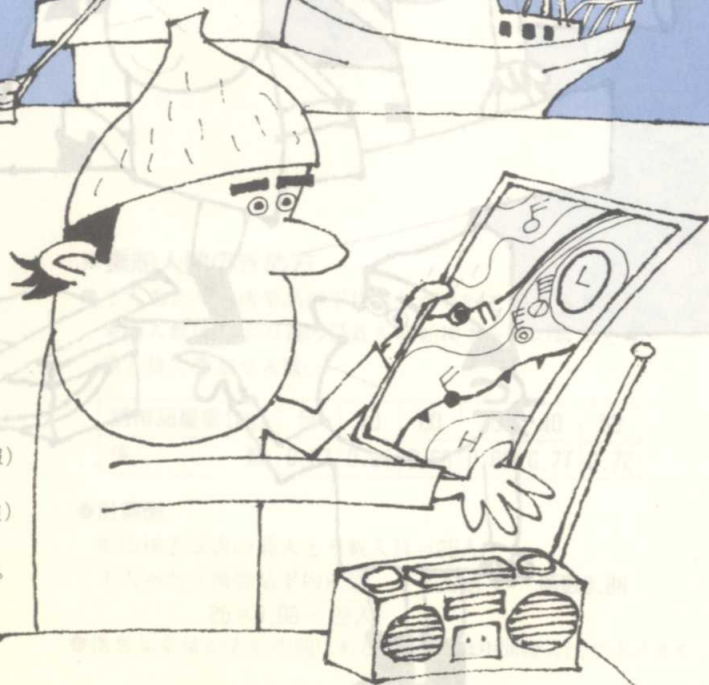
 6. 荒天中の操船要領

 7. 出港中止基準と避難基準のとりきめ

 - 出港前のチェックポイント

1 気象情報に注意

- ① 出港前にラジオ、テレビ等の天気予報、気象通報をよく聞きましょう。
- ② 放送される気象情報の観測時刻に注意しましょう。
- ③ 風向き、雲の動き等からその地域の天候を予測する「観天望気」は小型船にとって大切な気象観測の方法です。
平生からよく知った人に聞き十分な知識を得ておきましょう。
- ④ 陸上の風速が毎秒10メートルを超えているときまたは超えることが予測されるときは特に注意しましょう。海上では陸上の1.5倍の風が吹いていることがあります。



気象情報

- NHK(第2放送 693KHz)
09:10~09:30 (午前6時の情報)
16:00~16:20 (正午の情報)
22:00~22:20 (午後6時の情報)

●電話177

気象台発表の最新情報が聞けます。
(地域の情報は「市外局番-177」)

2乗船時の注意



- ①最大とう載人員を守りバランスよく平均に乗船しましょう。
- ②船客に対する指示は出港前に徹底させましょう。
- ③乗船者はできるだけ救命胴衣を着用するか、またはいつでも使えるようにしておきましょう。
- ④釣具その他の携帯品はできるだけ低い場所に置きましょう。
- ⑤携帯品については特に次の点に注意しましょう。

- (1)旅客の乗船場所にカサパル物を積むときは、その場所に相当する人数を減らす。
- (2)1人あたり平均5kgを超える物を積むときは重量に応じて乗船人数を減らす。

(※参考)



※乗船人数のきめ方

- 1人あたりの携帯品の平均重量が5kgを超えるときの乗船人数は、次の表の係数を船舶検査証書の最大とう載人員に乗じた人数。

携帯品重量(kg)	5	10	20	30	40	50
係数	0.97	0.94	0.88	0.83	0.77	0.72

●計算例

船舶検査証書の最大とう載人員=25人

1人あたり携帯品平均重量 =20kg…… 係数0.88

$$25 \times 0.88 = \boxed{22 \text{人}}$$

- 携帯品重量が表の中間にあるとき係数は中間挿入法で求めます。

3 航行予定と連絡

① 出港前に次の記録を作り基地においておきましょう。

- 乗船者の名簿
- 予定の航路、漁場
- 予定の帰港時刻

② 出港後は次のことをできる限り基地に連絡しましょう。

- 現在位置
- 天候、風の状態、海の状態、船の状態
- 船客の釣場への陸揚げ、収容の状態

